

# 青梅上成木ふれあいの森

## 活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 1606

1. 実施日 平成 28 年 6 月 18 日

2. 観察ルート 里仁会館～常盤橋～大滝～サエズリの谷～サエズリの道～ワープ新道～ミズナラの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道口）～里仁会館

### A. 里仁会館～常盤橋（都道 202 号沿い）

- ・この季節、道路沿いには今が盛りとドクダミ（ドクダミ科）が群生状態で咲いている。
- ・成木川の土手や山側の斜面には蕾状態のコマツナギ（マメ科）が多く見られる。
- ・昨年、自生が確認されたエビガライチゴ（バラ科）は、今年はその周囲に自生域を拡げて更に株数が増えており、まだ蕾状態だが来月にはたくさんの実が熟すと思われる。
- ・活動エリア内にはあまり自生していないヨウシュヤマゴボウ（ヤマゴボウ科）は今年も同じ場所で蕾をたくさん付けている。
- ・前回 4 月の観察で常盤橋の少し下流のある民家の畑近くに群生状態で咲いていたミヤマエンレイソウ（ユリ科）はたくさんの大きな実を付けている。
- ・花後の状態のキツネノボタン（キク科）がいくつか見られるが、全体に毛がないのでケキツネノボタンではなくキツネノボタンと思われる。この辺りでは自生数が少ない。
- ・都道 202 号沿いから常盤林道沿いにかけてホタルブクロ（キキョウ科）が所々で見られる。この辺りのホタルブクロの花はほとんどが薄紫色。



まだ蕾状態のエビガライチゴ



ミヤマエンレイソウの実



キツネノボタン

- ・常盤橋近くの道路沿いの湿った岩肌などにはまだたくさんのユキノシタ（ユキノシタ科）が咲き残っており、葉の裏が薄緑色のもの以外に紅色のウラベニと呼ばれるユキノシタも多く見られる。
- ・成木川の対岸にサワグルミ（クルミ科）の花後の果穂がたくさん垂れ下がっているのが見られ、同じ落葉高木のオオバアサガラ（エゴノキ科）はまだ蕾状態の果穂がたくさん垂れ下がっている。オオバアサガラは都道 202 号沿いばかりでなく常盤林道沿いでも多く見られる。またイラクサの道からサエズリ広場、サエズリの道にかけての随所でオオバアサガラの幼木が見られる。



群生状態のユキノシタ



サワグルミの実



まだ蕾状態のオオバアサガラ

## B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- 昨年の観察で自生を確認した常盤橋の少し先、左手岩肌のイワタバコ（イワタバコ科）は周囲にシダ類など雑草が多く繁茂しているが自生数が昨年より多いように思われる。
- 林道沿いの湧き水が流れ出ている道端にはミゾホオズキ（ゴマノハグサ科）の黄色い花が多数見られる。
- 林道沿いを鮮やかに彩るサワギク（キク科）の黄色い花がボツボツ咲きはじめた。年々自生数が増えているように思われる。
- 林道沿いの斜面の所々でアカショウマ（ユキノシタ科）の白い花が咲いている。
- 林道沿いで多く見られるウリノキ（ウリノキ科）の花はそろそろ終わりで、特徴的な実が付きはじめている。
- ノリウツギ（ユキノシタ科）はまだ蕾状態で間もなく開花か。

## C. 大滝～サエズリの谷（イラクサの道）

- イラクサの道の入口近く、右手山側の岩肌の昨年のモニタリングポイント①のイワタバコ（イワタバコ科）の生育状態は良好で今後の開花が期待される。  
イラクサの道の反対側の左手沢沿い、この周辺にかけての足元から下方の岩肌にもたくさんのイワタバコの自生が見られるが、大滝前のイワタバコは例年に比べ自生株数が少ないように思われる。
- イラクサの道の右手山側の斜面の昨年のモニタリングポイント①のツルリンドウ（リンドウ科）は分岐した蔓も含めて更に成長している。
- イラクサの道の沢沿いにはきれいに咲いているクワガタソウ（ゴマノハグサ科）が多く見られる。  
クワガタソウは常盤林道沿いやサエズリ広場でも見られ、昨年までは自生数が少なく開花状態があまりよくないものが目に付いたが、今年はきれいに咲いたクワガタソウがたくさん見られる。
- イラクサの道の途中、沢を渡り返す辺りでとても小さな変わった名前不詳のキノコを見つける。
- イラクサの道からサエズリの谷にかけての沢沿いの道は最近人があまり入っていないため、人の背丈ほど伸びたシダ類や雑草の繁茂がひどく踏み跡が不明瞭なところもある。
- イラクサの道沢沿いの左手山側の昨年のモニタリングポイント②のイワタバコは前回4月の観察で岩肌にいくつかの若葉を確認したが、昨年に比べ自生数が少なく生育状態もあまりよくない。  
この辺りの岩肌の乾燥化で年々自生数が減っているように思われる。
- イラクサの道の沢沿いの途中、昨年のモニタリングポイント②の左手岩場のイワタバコより少し手前、右手沢側の大きな岩肌到现在たくさんのイワタバコの自生を確認、この辺りの沢は水が涸れることがないので湿潤状態良好で生育もよくたくさんの開花が期待される。
- 沢沿いのイラクサの道の上流部の三角岩周辺は岩肌の乾燥化がひどく、今回もイワタバコはまったく確認できず今後とも自生は期待できそうもない。



イラクサの道入り口近く、右手山側のイワタバコとツルリンドウ



イラクサの道で見つけた変わったキノコ



イラクサの道沢沿い  
中流域沢側のイワタバコ

- ・サエズリ広場のはずれに毎年自生するマルミノヤマゴボウ（ヤマゴボウ科）は今年もいくつか花を咲かせている。
- ・サエズリ広場のツリーハウスの近くに昨年トチバニンジン（ウコギ科）2株の自生を確認し、そのうちの1株が花を咲かせたが、今年も同じ場所にやはり2株の自生を確認。今年も2株とも花を咲かせており、夏の終わりに赤い実が見られるか？・・・
- ・サエズリ広場のツリーハウスの近くに濃い緑色が鮮やかな花後のヒトリシズカ（センリョウ科）が群生状態で生えている。
- ・サエズリ広場の少し先、奥の細道にかけての沢沿いにはモミジガサ（キク科）が群生状態で生えているが、早春の時期の若葉の大きさほどしかなく、生育環境が極めて悪いと思われる。常磐林道沿いでも背丈が人の腰の高さほどに伸び、蕾状態のモミジガサが所々で見られる。



今年も2つの花を付けたトチバニンジン



ツリーハウス近く、緑がきれいなヒトリシズカの葉



サエズリの谷の潤れた沢沿いに生えるモミジガサ

#### D. サエズリの谷～看板エリア（サエズリの道、ワープ新道、ミズナラの道、スマレの道）

- ・サエズリの道からスマレの道へ向かう途中、支沢の出合い付近の左手岩場の昨年のモニタリングポイント③のイワタバコは岩肌の乾燥化が進んでいるせい自生数が少なく生育状態はあまりよくない。
- ・この岩場の前でサワガニを一匹見つける。数年前には小石をはがすとかなりの確率で見つかったが、最近沢の水も涸れぎみで生息数が激減しているのか、ほとんど見る事ができなくなってしまった。
- ・サエズリの道の途中、ワープ新道分岐の少し手前辺りで1株の小さなツルリンドウの自生を確認。近くの枝切れで簡単な囲いをする。
- ・このツルリンドウの少し先でハンショウヅル（キンポウゲ科）が蔓を伸ばしているのを見つけ、近くの枝切れで簡単な囲いをし、山道に沿って伸びている蔓を近くの灌木に絡ませる。（他の植物に蔓を絡みながら生育しないと花が咲かないので）



サエズリの道途中の岩肌のイワタバコとその近くで見つけたサワガニ



サエズリの道の途中、ワープ新道との分岐に手前の山道で見つけたツルリンドウとハンショウヅル



- ・ワープ新道からミズナラの道にかけて数年前からコアジサイ（ユキノシタ科）の幼木が増えている。間伐の成果で日照がよくなり下草も年々増えており、春にはセンリョウ科のヒトリシズカ、フタリシズカ、シソ科のキラソウ、ニシキゴロモ、ジュウニヒトエなどの花も多く見られるようになっている。

- 昨年、スマレの道の山側斜面上部のミズナラエリアの斜面でたくさんのセンブリの自生が確認され、前回の4月の観察ではまだ新芽が出ていなかったが今回いくつかの新芽を確認。今後花が咲きそうな株がどの程度順調に生育するか観察。
- スマレの道沿い、昨年のセンブリのモニタリングポイント周辺には今回の観察ではセンブリの自生は確認できず。  
この周辺のセンブリの自生はスマレの道の山側斜面上部のミズナラエリアの斜面がメインで、昨年までスマレの道沿いで見られたセンブリはミズナラエリアの斜面のセンブリの種が斜面の下のスマレの道沿いに落ちて発芽したものと思われる。
- ミズナラエリアの斜面のセンブリ自生地近くでクチナシグサ（ゴマノハグサ科）と思われる植物の自生を確認。開花時期は過ぎてているが花が少し残っており、いくつか特徴的な実を付けている。



ワープ新道からミズナラの道にかけて見られるコアジサイの幼木



ミズナラエリアの斜面で見られたクチナシグサと思われる花と実



#### E. 看板エリア～潤沢出合い（リンドウ坂、アジサイの道）

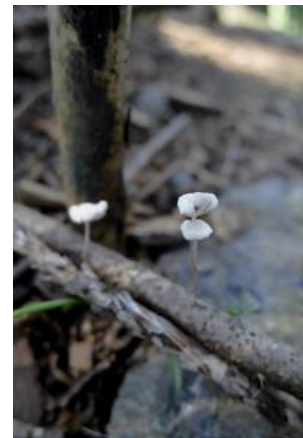
- 保全地域看板近くの昨年のモニタリングポイント②のツルリンドウの自生数を今回カウント、28株の自生を確認。  
昨年8月の観察時に28株の自生をカウント、今年いくつか新たに新芽が出ているが、昨年生育不良にて途中で枯れてしまったり消滅したものがいくつかあり、現在の自生数が昨年と同じであることを確認。
- 保全地域看板の少し下、左手のイチヤクソウ（イチヤクソウ科）は昨年大きな1株が開花して実も付け、7月には小さな株も含め13株ほどの自生が確認され、秋には鹿の食害などで少し自生数が減っていたが、今回12株の自生を確認。今回はその内の5株に花芽を確認、順調な開花が期待される。
- リンドウ坂ベンチ近く、昨年のモニタリングポイント③のツルリンドウは昨年7株の自生を確認したが、今回は8株の自生を確認。  
ツルリンドウの近くの倒木に白い小さな名前不詳のキノコがたくさん生えているのを見つける。



都保全地域看板近くのツルリンドウ



花芽を付けたイチヤクソウ



リンドウ坂の変わったキノコ

- リンドウ坂からアジサイの道にかけてキク科のカシワバハグマ、オクモミジハグマの新芽が所々で見られる。数年前からのアジサイの道の補修で植生環境が改善されたせいも、最近アジサイの道にかけては特にオクモミジハグマの自生株数が増えているように思われる。

- ・毎年アジサイの道の斜面を彩るヤマアジサイの花は今年は少ないように思われる。
- ・まだ時期的にはまだ早いですがヤマアジサイの開花後、アジサイの道や常盤林道沿いを彩るクサアジサイがほとんど見られず、今年は自生数が極端に少ないように感じられる。

#### F. 涸沢出合い～大滝（常盤林道沿い）

- ・涸沢出合い（大滝作業道口）周辺にはまだ蕾状態のウバユリ（ユリ科）が多く見られる。  
ウバユリは都道 202 号沿いから常盤林道沿いにかけても所々で見られる。
- ・涸沢出合いから大滝方面に戻る途中、前回 4 月の観察で見つけた常盤林道成木川側の岩肌のイワタバコは順調に成育しており、たくさんの開花が期待される。
- ・これより少し下流、涸沢出合い～大滝間の駐車スペース近く、昨年のモニタリングポイント④のイワタバコは、岩肌の上部は乾燥化による崩落が進んでいるためか小さな葉が少しだけ見られるだけで生育のよい大きな葉がほとんど見られず、岩肌の下部から林道沿いにかけては大小たくさんの葉が生えているものの、以前に比べるとシダ類など雑草の繁茂もひどく、岩盤の乾燥化による崩落により全体的に年々自生数が減っているように思われる。



涸沢出合い～大滝間、涸沢出合い近く  
成木川側岩肌のイワタバコ



涸沢出合い～大滝間、駐車スペース近く、  
山側岩肌のイワタバコ

### 3. 総括

- ・ツルリンドウは昨年同様、所定のモニタリングポイントについて定期的に自生株数のカウントと生育状態を観察する。
- ・ミズナラエリア斜面のセンブリはまだ新芽が出はじめて間もないため、スマレの道も含めて夏の時期以降開花が見込まれる株についてのみ自生株数のカウントと生育状態などの観察を行う。
- ・イワタバコについては生育状態の良好な場所を改めてモニタリングポイントに設定し、開花時期に任意の範囲内に咲いた花の数をカウントすることにする。
- ・昨年はトチバニンジン、イチヤクソウについても自生株数のカウントと生育状態の観察を行ったが、今年も引き続き同様な観察を行う。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部